

## 如法寺木造聖観音菩薩坐像について

1. 制作年代 14世紀の南北朝時代の制作と考えられる

2. 作 者 不明

3. 法 量 像高46.3cm

4. 形 状

髻を高く結いあげる。元結紐下二条、髻を布で覆う。地髪部は束ね目をあらわし、毛筋を彫出する。天冠台彫出。天冠台に髪を絡める。宝冠をつける。白毫相(現状欠損)。耳朵環状。三道相。胸飾をつける。衲衣を通肩にまとう。左手屈臂して腹前で未敷蓮華をとり、右手屈臂して胸前にあげ、第一指と第二指を捻ずる。結跏趺坐する。

5. 構 造

針葉樹。寄せ木造。彩色。玉眼嵌入。

頭体幹部は両耳後ろを通る線で前後に二材に矧ぐ。内削りをし、割首とする。両肩より外側 地付きまで体側部材を矧ぐ。右手前前膊半ばより先に一材を矧ぐ、両手首一材。右手より垂れる衲衣の先に一材。両脚部横木材、裳先を矧ぐ。髻を矧ぐ。像底に体幹部材より像心束をつくり出す。地付きよりやや上部に前後材をつなぐ束をつくり出し、接合する。表面肉身部は白色白地の上に金泥塗り。衣部は錆漆下地、白色下地の上に金泥塗り、盛り上げて文様あらわす。

像内は頸部以下、黒漆塗り。像底矧ぎ目には布張り、黒漆り。

6. 保存状態

表面彩色については、造像当初のものが残されており、非常に保存状態がよい。盛り上げ彩色については、経年によって弱ってきている。天冠は造像当初の南北朝の様式がしっかり残されており、非常に貴重である。そのほか、装身具、像内黒漆塗りは当初のままかと思われる。

また、像内矧ぎ目の布貼りが剥がれており、弱ってきている。

髻後補。持ち物後補かと考えられる。

全体的に見て、年代を経てきて、彩色や構造は弱ってきているものの、保存状態がよく、造像当初の状況がよく残されていて、非常に貴重な仏像である。

6. 管理状況

この仏像は如法寺鳥追観堂のお前立像であり、同観音堂内に安置している。